

# 避難指示が出た 西へ： それから10年

## わたなべ としつな 渡辺 利綱

前大熊町長

昭和22年(1947)、大熊町生まれ。  
町議会議員を4期務め、2007年町長に初当選。1期途中の2011年、  
震災と原発事故が発生し、町民とともに田村市、会津若松市に避難し、  
避難対応と早期復興に尽力。2019年11月、町長を退任。

10年前の3月12日朝、首相官邸から電話が入った。  
「避難指示が出た。西へ避難してほしい」。そう言われて、原発の深刻な状況を  
知らされないまま避難先に向かい、町民もバスに乗り込みました。  
それからの10年は、大変なことの連続。  
とにかく前に進むしかないと自分に言い聞かせて、やってきました。  
一番大変だったのは、やはり中間貯蔵施設の受け入れを決断したとき。  
「帰還は無理だから」と賛成する人、「先祖の土地を守りたい」と反対する人、  
「条件によっては協力する」という人。町民の意見は、三者三様でした。  
90歳近い方から「戦争中も大変だったけど、『出てけ』とまでは言われなかった。  
戦争よりひどいよ」と言われたこともありました。  
反対派が圧倒的に多かったから、町長として、国に「反対」を表明してもよかった。  
でも、大熊町の汚染土を受け入れる場所はあるのか。  
なければ、大熊はずっとこのままだ。  
だったら、国に協力して、町民の生活の再建をはかったほうがいい。  
そう町民を説得して、受け入れを決断しました。  
これからのまちづくりは、後任にまかせたい。  
未来都市を新しくつくりあげる気持ちで取り組んでもらいたいと思っています。



2011年4月、大熊町役場会津若松出張所開所式